

I 事業報告

1 会社の現況に関する事項

(1) 事業の経過及び成果等

東日本大震災津波から14年が経過する中で、同じ被災地の一つであり、隣接する大船渡市において大規模林野火災が年度末に発生しました。改めて災害などの危機管理を徹底していかなければなりません。

第6次経営計画の初年度を迎えました。

資源・エネルギー価格や食料価格など物価の高騰が続き、度重なる施設保険料の値上げや設備修繕などの維持保安経費の負担増などがあり、見込みを上回る最終損失を計上しました。

令和6年度の石油類の出荷量は、30万キロリットルを割りこみ、減少傾向が続いています。油種別ではレギュラーガソリンが、前年を上回り増加したものの、他の油種は軒並み前年を下回り減少しました。

また、液化石油ガス（以下「LPG」）の出荷量も、前年を下回る実績となりました。

長距離輸送などの物流課題が顕在化する中で、三陸沿岸道路などの高規格道路インフラを活用できる釜石基地の有効活用について、元売りの皆様のご協力を引き続きお願いしてまいります。

売上収入は、石油及びLPGとも料金単価の再度の改定を行った結果、前年に比べ増収となりました。一方、設備修繕の外注工事費などの維持管理経費負担に加え、コロナ禍後年々重くなる法定開放検査経費に備える引当金も増額せざるを得ないなど基地運営に要する経費も増加し、厳しい状況が続いています。

引き続き、収支均衡を目指して健全経営の実現に努めるとともに、日常の点検など施設・設備の維持管理を適正に行い、災害などのリスクに適切に対応し、安全で効率性の高い信頼される基地として運営に万全を期してまいります。

今後も、地域のエネルギー供給拠点として「安定供給」と「安全操業」を基本方針に据え、地域経済の発展に貢献してまいります。

① 受入及び出荷実績

今期の石油類及びLPGの受入は、117隻（前期116隻）のタンカーが着棧し、石油類293,229キロリットル（前期294,329キロリットル）、LPG8,579トン（前期8,752トン）となりました。

また、石油類及びLPGの出荷は、石油類291,075キロリットル（前期比△3.1%、9,337キロリットルの減少）、LPG8,146トン（前期比△11.3%、1,039トンの減少）となりました。

② 投資及び修繕の状況

投資部門は、石油ローリー積込場の流量計3台を更新しました。4年計画で1車線ずつ、順次更新する予定としております。また、栈橋の軽油受入れホースも更新し安全性を確保しました。

施設の保全・修繕部門では、3年毎に実施している軽油コアレスサーのフィルター交換工事をはじめ、石油タンク定量弁の分解整備や高圧ガス保安法に基づく毎年のLPG保安検査、前年から繰越した防油堤貫通部配管取替工事など、各施設・設備の重点的な点検と修繕整備を実施し、施設・設備の予防保全を図り、構内全体の安全性向上と製品品質の保持に努めました。なお、バリアユニットの更新工事とLPGポンプの点検検収及び補修工事を翌年度に繰り越しました。

③ 経営の成果

石油収入は193,259千円(前期比+14.2%、24,088千円の増加)、ガス収入は30,563千円(前期比+43.2%、9,214千円の増加)となりました。

料金単価を改定したことにより大幅に増収となり、総事業収入は223,822千円(前期比+17.5%、33,303千円の増加)となりました。

次に運営経費につきましては、前期を37,466千円上回りました。夜間等の宿直者の雇用契約への切替えなどに伴う人件費や施設保険料、次期法定開放検査に備える特別修繕繰入金が増額などにより、一般管理費は243,695千円となりました。

このため、営業収支及び経常収支とも損失となり、12,568千円の当期純損失を計上いたしました。

④ 対処すべき課題

釜石基地の施設・設備を適切に維持稼働し、「安定供給」と「安全操業」を遂行していくには、日常の点検や法定開放検査など、修繕や更新による設備の予防保全が重要となっています。

また、頻発化や激甚化する災害などの危機に適切に備えていくとともに、需要減少やカーボンニュートラルへの対応などの長期的な課題にも着実に取組を進めていく必要があります。

加えて、料金単価の改定により増収となったものの、出荷数量は減少傾向にあることから、料金制度の検討は、継続していく必要があります。

これら諸課題に真摯に取り組み適切に対応してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも、格別のご理解、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。また、株主の皆様からのご意見、ご要望も、随時承知し、改善に努めます。